

第1学年2組 英語科学習指導案

平成28年12月9日(金)第5校時
場所 3階多目的室 授業者 横山 裕一

研究主題

生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成するための効果的な指導と評価
～即興で「話す」能力の向上を重視した指導を通して～

1 単元名 Unit 8 イギリスの本 (New Horizon English Course Book 1 東京書籍)

2 単元の目標

- (1) 自分と相手以外の人やものなどについて質問や反応をしながら対話を続けようとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 自分と相手以外の人やものなどについて対話を続けることができる。
どこにあるか、だれのものかをたずねることができる。
【外国語表現の能力】
- (3) 友人の話や質問を聞き、その内容を適切に理解することができる。
【外国語理解の能力】
- (4) 人称代名詞の目的格の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
【言語や文化についての知識・理解】

小学校外国語活動「Hi, Friends! 1」との関連 Lesson 4 I like apples. Lesson 5 What do you like ?

3 単元の指導計画

総時数 9時間

- (1) Part 1 どこにあるかをたずねよう _____ 2
① 本文の聞き取り T or F Q&A 新出語句 内容理解 音読など
② Where を用いた文の形・意味・用法の理解と言語活動
- (2) Part 2 だれのものかをたずねよう _____ 2
① 本文の聞き取り T or F Q&A 新出語句 内容理解 音読など
② Whose を用いた文の形・意味・用法の理解と言語活動
- (3) Part 3 知っているかをたずねよう _____ 2
① 本文の聞き取り T or F Q&A 新出語句 内容理解 音読など
② 代名詞の目的格についての理解と言語活動
- (4) 総合言語活動 _____ 1 (本時)
- (5) Unit 8 のまとめと単元テスト _____ 2

4 研究主題との関連

「CAN-DOリスト形式による学習到達目標設定及び達成状況の把握・指導への反映について」

(1) これまでの指導から

本校では、年間を通し「話すこと」の言語活動において同種のタスクを継続して行うことで、「スピーチ」に必要な要素であるアイコンタクト、声量、流ちょうさ、内容、文法の正確さの5つを高めることをねらっている。タスクを一度きりで終わるのではなく、少しずつ変えながら繰り返して行わせることで技能の向上を図るとともに、生徒の改善を図ろうとするモチベーションも上げたい。また、自己紹介や自分の好きなものをスピーチした後、それらについて「やりとり」を行わせた。

(2) 「やりとり」における生徒の課題

課題としては、「対話がうまく続かない」ことであった。そこで本時では、好きな教科について対話するという同種のタスクである、自分の好きな有名人について対話を続けるというタスクを示し、3人グループでメンバーをどんどん代えながら対話をさせる。グループを代えて対話を行うということは、そのグループのメンバーによって対話の内容が変わり、相手からの発言を受けて、適切な基本文や重要単語等を抽出して使うという即興の力が求められる。「話すこと」の一つである「やりとり」の力を高めていくために、①話をよく聞き質問する、②情報を付け足す、③反応する、④繰り返す、⑤話を振るという5つのポイントを意識させ、対話ができるだけ続くようにさせたい。

(3) 達成状況の把握・指導への反映について

達成状況を把握するためには、「振り返り」を授業の最後だけに行うのではなく、言語活動の度に行い、生徒が自分の課題を明確にしながら次の言語活動に臨めるよう、形成的評価を工夫する。今までの言語活動の振り返りシートは単元ごとに1枚ずつあり、技能ごとにまとまっているようなものはあまり見られなかった。そのため、つながりや改善すべきことについて把握するのが面倒であり、生徒それぞれの課題があいまいなままであった。そこで、技能ごとに年間の成長が一目でわかるよう、1枚の振り返りシートを作成した。

5 本時のねらい

好きな有名人について話したり質問したりしながら対話を続けることができる。

